

「家がいいね」 第253号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2025. 6. 7

雨がふります 雨がふる あそびに行きたし 傘はなし
紅緒（へにお）の木履（かっこ）も 緒（お）が切れた
雨がふります 雨がふる いやでもお家で遊びましょう
千代紙（ちよがみ） おりましょう たたみましょう
雨がふります 雨がふる けんけん小雉子（こぎじ）が
今啼（な）いた 小雉子も寒（さ）かる 寂（さ）しがる
雨がふります 雨がふる お人形（おにんぎょう）かせど まだ止まぬ
お線香（せんこう）花火（はなび）も みな焚（た）いた
雨がふります 雨がふる
昼（ひる）もふるふる 夜（よ）もふる
雨がふります 雨がふる

雨（作詞 北原白秋）

（作曲 弘田龍太郎）

1971年（大正8年）
生き物には慈雨（じう）であるが寂しい
自然の移り変わりを待つ所です

ホームホスピスが消える街

154号（8年前）には、
在宅医として待ち望んでいた
ホームホスピス「あこや」が
誕生した経緯を書きました。
我が母も、あこやの前身に
世話になって、自宅看取りへ
繋がったので喜び一塩でした。



記事を転載します。病院での経験からこんな見送り方はしたくなかったという家族の負の遺産により在宅医療を目指した方々との出会いが多い。最近こんな看取りもできると知ったので依頼も増え、地域の医療や介護を巡る文化が少しずつ変わってきたようにも思えます。また在宅看取りができて、家族近親だけの共有に留まっていたのが、地域の話題にしても良いといわれる方も現れています。「住み慣れた町で生活し、最期もこの家で」の願いは、少しずつ目に見えてきたように思います。
地域で安心して住み続け、老いて、最期まで迎えることが、実際に「あこや」というもうひとつの家で支えられ、確認できるなら素晴らしいです。「ともぐらしの家」が継続できることには、医療の役割として、今後も最大限の協力をして参りたいと思います。（引用おわり）

その「あこや」が7月で閉じられると4月に突然聞き驚きました。母体のNPOからは手続きのことしか聞けず、支援者や地域へ公表説明は、いまだ、されていません。



ホスピス（緩和ケア）は必要だけどもね・

病院ホスピスは味気ない。日赤緩和ケア病棟はコロナで休止され未だ再開していない。伊勢病院ホスピス病棟は実質3床で帰れないのが原則だと。自宅ならば、訪問診療と訪問看護や訪問介護で、在宅ホスピス（緩和ケア）は可能になります。しかし核家族化で、介護力不足が一番の問題です。迷惑をかけたくないと、家から離れようとする時、もう一つの家「あこや」は地域の財産と言えます。5人の入居者でしたが、歴代9人の最期へ助力をしてくれました。その中心の山口絹さんの名を覚えておいて欲しいと思います。宮崎へ半年間のホームホスピス研修に行き魂を引き継がれました。最期を家で見守る、適切な介護支援者と思います。

こどもには、先が分るよ

昨年の出生数が68万人って最低更新だそうです。ピークは1949年の269万人です。私はその1年後の出生。日本の未来は、これから生まれる子に託すことになります。我が家の出生予定が3人。合わせて5人の孫が歓声をあげる日が近い。



転居の発表、お待ち下さい 次号に詳細を掲載予定です。



夏季休診のお願い

お盆期間の休診ですが、
8月13日（水）～15日（金）

暑くなる時期、ご自愛を。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可